

議 事 録

会 議 名	第28回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	平成26年11月5日(水) 午後1時30分～午後3時35分	
開 催 場 所	宇都宮市役所 本庁舎14階 14A会議室	
出 席 者	環境審議会 委 員	郷間 康久委員, 小平 美智雄委員, 舟本 肇委員 五月女 伸夫委員, 大久保 忠旦委員(会長), 伊藤 直次委員 前橋 明朗委員, 竹澤 正樹委員, 芝野 三郎委員 高橋 啓子委員, 朝田 尚宏委員, 三宅 徹治委員(副会長) 北村 里美委員, 黛 美紀男委員, 江島 ゆり子委員 久我 臣仁委員
	欠 席 者	黒沢 良夫委員, 近澤 幸嗣朗委員, 篠崎 實委員, 金枝 右子委員
	事 務 局	環境部長, 環境部参事, 環境部次長, 環境部副参事, 環境政策課長, 環境保全課長, 廃棄物対策課長, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 交通政策課長, 環境政策課エコエネルギー担当主幹, 環境部総務担当主幹, 環境政策課課長補佐, 環境政策課職員6名
公開・非公開	公開	
傍聴者・記者	傍聴者2名, 記者0名	
会議概要	1 開会 2 委員紹介 3 会長挨拶 4 議事 (1) 第2次宇都宮市環境基本計画の進捗状況について(平成25年度分) ⇒ 了承 (2) 第2次宇都宮市環境基本計画等の改定・策定に係る基礎調査の結果及び環境都市像の検討に向けた方向性について ⇒ 了承 5 その他 6 閉会	

発言要旨

議事（１）「第２次宇都宮市環境基本計画の進捗状況について（平成２５年度）」

会長 それでは、議事の（１）「第２次宇都宮市環境基本計画の進捗状況について」です。事務局より説明をお願いします。

事務局 — 資料に基づき説明 —

会長 ありがとうございます。
皆様から何か、ご質問はありますか？

委員 只今の報告によると、２３の事業のうち１７の事業は期待値に対して達成度が９割を超えており、「順調に進んでいる」となっているので、環境基本計画の進捗状況はとても良いという印象を受けますし、データを見た市民の方も、宇都宮市の環境は何の問題がなく順調であると捉えると思います。しかし、２１年度の基準値から２７年度の目標値に比例的に推移すると仮定した時の期待値で評価していいのかと疑問を抱きました。このような実績なのであれば、もう少し高めの期待値を設定してもよいのではないのでしょうか。高い目標を宇都宮市が目指すことによって、環境都市としてバランスの良い宇都宮市の良さをアピールでき、また、誇りとすることができると思います。もう少し欲張った目標値を設定し、宇都宮市民と一緒に更に取り組むことが非常に大切だと思います。

それから、生物多様性の問題についてですが、４年前に名古屋で開催されたＣＯＰ１０に参加しました。その時、感じたことですが、生物多様性の問題は、分野としては「自然環境」に入ると思いますが、地球環境にも結びつく非常に重要なものです。行政においても、様々な部署に跨る事業になるかと思えます。生物多様性の戦略プランを策定されるのですが、今後、具体的にどのように進めていくのかお聞きしたいと思います。市民のなかには生物多様性を分かっていないのに分かっていると思っている方も非常に多いと思います。

会長 ただいまのご意見に対して何か意見がある方いらっしゃいますか。

事務局 期待値についてですが、年次計画があればその中で評価ができますが、毎年の目標値を持っているものがないため、期待値での評価としております。更に高い目標設定など、今後の目標値などの考え方につきましては、次期環境基本計画の改定作業等の中で検討し、できるところからより良くしていきたいと思っております。

事務局 生物多様性の認知度の向上を図るため、パネル展示を地区市民センターのほか、今年度からは新たに「宮カフェ」でも行ったり、生物多様性に関する新しいパンフレットを作成し、市のイベント等で配布したりしています。また、市民に生物多様性の重要性を知っていただけるよう、計画的な普及啓発の考え方についてまとめました。ＣＯＰ１０後、全国的にも生物多様性の認知度が減少している状況ですので、宇都宮市としても生物多様性の重要性について、周知啓発を行っていききたいと思います。

会長 ありがとうございます。

委員 生物多様性についてですが、最近できた新しいパンフレットはとてもわかりやすいと思いますが、ペーパーでの啓発には限界があるとも感じています。環境学習センターの環境学習にも生物多様性に繋がる取組がいくつもありますが、これが生物多様性と繋がっているんだよと啓発しているかというところまではできていません。例えば、土の中の生物を探したり、雑草を採るような講座で、これらが実は生物多様性に繋がるということ、汗をかきながら覚えることができます。ペーパーによる啓発だけではなく、実践行動の中で生物多様性と繋がるキーワードを入れていくことを提案したいと思います。汗をかく場面で生物多様性を理解するような切り口が大切だと思います。

会長 今のお話に出てきた環境学習講座の対象年齢は何歳くらいですか？

委員 小学生とその保護者が対象です。

会長 多様性という翻訳そのものに問題があるような気がしています。

委員 生物多様性について、私からも意見を述べさせていただきたいと思います。
やはりひとつだけバツの評価のため目立ちますが、生物多様性という言葉は非常に難しいと思います。なぜ難しいかというと、我々が日ごろから行っている行動や活動との定着がなかなか見えにくいことや、言葉だけでは表現しにくいことが大きいのではないかと思います。

先月、佐渡市に行った際、佐渡市ではトキとの共存ということで、環境保全型農業を行っていました。全面的に生物多様性を展開すると位置づけ、船を降りた瞬間から生物多様性のポスターが貼ってあり、市民がトキを育てるために取り組んでいくんだという熱意を感じました。宇都宮市にはフラッグシップになるような生物はいませんが、普段取り組んでいないものを定着させることは難しいと思いますので、日ごろ私たちが行っている何気ない行動や環境保全が生物多様性にも結びついているという切り口で周知するなど、これからの施策に活かしていただきたいと思います。

一点、質問ですが、別紙1-2の5頁「自動車騒音に係る環境基準の達成率」の評価が△になっており、特に「一般国道における自動車騒音の達成率が悪化している」と説明があります。参考資料1の116頁の実際の測定結果の数字を見ると、一般国道と都道府県道の数値が非常に悪く、基準値を下回るのが難しい状況です。最近では自動車のアイドリングストップや騒音規制など相当厳しくなっている中、なぜ数値が下がらないのか、どのような分析をしているのか、教えていただきたいと思います。

事務局 一般国道等につきましては、自動車の交通量の測定地点は全部で7箇所ほどあります。そのうち、新4号国道において、平成24年度との比較で、交通量が10パーセント以上多かったことから騒音が大きいという結果となりました。

委員 自動車の交通量の増加が騒音に影響したということでしょうか。

事務局 そのように分析しています。

委員 それが要因であるならば、交通騒音の指標だけを見るのではなく、公共交通の利用促進など、交通全体のあり方などの視点も追加していく必要があると感じました。意見として申し上げさせていただきます。

会長 その他の意見はありますか。

委員 交通の話が出ましたので、自転車走行効果の整備について伺います。宇都宮市では先進的に自転車専用レーンを進められており、今後もその距離を延長していくということですが、これによって自転車と歩行者との事故件数が減っているという情報はありますか。

事務局 自転車の走行空間の整備につきましては、これまで自転車と歩行者は歩道側を通行していたものを、基本的に自転車は車道側を通行するという方針で進めております。具体的には路側帯部分を水色にし、自動車からの視認性を高めながら、歩行者と自転車を分離するとともに、自転車の左側通行を誘導しているところです。一部の路線では、自転車走行空間の整備により、自転車に関わる事故件数が減少しているというデータがでています。

委員 ありがとうございます。自動車を運転する立場からすると、自転車にかなり気をつけて走行することにもなりますので、さらに整備を進めていただきたいと思いました。

会長 その他、ご質問はありますか。

委員 生物多様性に話が戻りますが、生物多様性の意味を知っているか否かという指標は宇都宮市独自のもののでしょうか。環境基本法などである程度決まっている指標なのでしょうか。

事務局	<p>国においても同様の調査をしており、言葉の意味を知っている、意味を知らないが言葉聞いたことがある、聞いたこともない、の3つの選択肢となっていますが、本市独自の調査として実施しています。また、指標は市独自のものです。</p>
委員	<p>指標を見て感じるのですが、生物多様性という言葉を知っているからといって、生態系を守っていかうという気持ちになっているのか、それは全然量れないと思います。宇都宮なら、宇都宮動物園などで動物と触れ合ったか、どのくらいの割合で触れ合っているかなどを指標とすれば、もう少し良い結果になるのではないのでしょうか。生物多様性の意味を知ることは専門家に任せ、一般市民にはもう少し分かりやすい指標を設定した方が良いのではないかと感じました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。次期計画の中でそのような指標の設定も考慮していきたいと思っています。また、実践と結びついていないのではないかとこのご指摘につきましても踏まえていきたいと思っています。</p>
委員	<p>先ほども申し上げましたが、環境基本計画の中で実績を評価するわけですから、他の指標との比較になってしまうわけです。○、△、×の考え方については、それを知っているか否かという指標と、ごみなどの実施度合いを細かく分析して判断した指標を強引に並べていますので、外へ出すには工夫が必要だと思います。でなければ、定義をきちんと外に説明しなければいけないと思います。</p> <p>グラフから分かると思いますが、知っている度合いのグラフと、達成度を表すグラフとでは、同じ評価をする上では並べるのは良くないと思います。何らかの形で全体的に工夫が必要だと思います。複数の視点から経年変化を捉え、判断していくのがよろしいかと思っています。</p> <p>それから、既に行っていることが実は生物多様性に結びついているということもたくさんあると思います。河原野菊を復活しようとしたり、絶滅危惧種を何とかしようという市民活動も生物多様性と結びついており、そのような活動を映像とかに残して、生物多様性に結びつく1つの事例として取り上げ、気づきにつなげることが必要だと思います。気づきから、実生活の中で生物多様性の取組が生まれてくれば良いと思います。</p> <p>また、宇都宮には、生物多様性の分野で活躍されている国際ジャーナリストがいらっしゃって、COP10で一分野を担っておられました。その方は、ペーパーだけでなく、大学の先生や活躍されている方のお話、映像などを使って、宇都宮のよい自然を実感できるような気づきを作り、あなたはもう生物多様性に取り組む実践者ですよと思わせるような取組を行っています。生物多様性について自己評価をするためには、国に倣ってではなく、3つか5つの項目を設定して、宇都宮市民の行動や反応を捉えて判断した方がよいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。確かに、委員がおっしゃったことは1番大事なことを突かれたなという感じでした。他にはご意見ありますか。</p>
委員	<p>×や△の評価がついているところは、小さい頃からの教育が重要だと思っています。いくら道路の整備をしても市民の意識がついてこなければ、最終的なところへ到達しないと感じます。実際、子どもを幼稚園に通わせている時に、初めてエコクラブ活動というものを始め、子どもたちにどのように訴えかければ良いかと考えました。子どもたちでも理解できる環境対策を行うことにより、評価が×や△の部分の底上げができるのではないかと思います。エコクラブ活動では、紙芝居を探しましたが、環境関係の紙芝居はとて少なかったと記憶しています。パンフレットなどではなく、身近に使えるものを増やしていくことで、子どもたちの目線で環境にやさしい行動やリサイクルをきちんとするなどの行動が当たり前のこととして定着すると思います。</p>

事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございます。まさに環境都市作りの基盤は人づくりだと思っております。私どもも幼児環境学習の推進として、幼稚園や保育園で環境にやさしい取組に積極的な園を「みやエコ園」として認定する取組も行っております。先ほど、教材の話も出ましたが、平成21年度から、遊びながら学べるような教材も作っており、スゴロクやもったいない紙芝居は市ホームページからダウンロードもできるようになっています。これらを活用していただき、今後も、小さい頃から大人になるまで継続的に環境学習ができるような体制を作っていこうと考えております。</p>
会長	<p>確か、国立青少年教育振興機構と記憶していますが、そこでの研究結果によりますと、小学生、中学生・高校生は、年々自然との接触機会が少なくなっているというはっきりしたデータが出ています。子どもたちはスマホを見ているような状況ですから、市役所も努力をしているようですが、自然体験や生物との接触機会を増やしていくことは大切なことだと思います。</p> <p>その他の項目で何かありますか。</p>
委員	<p>「住宅用太陽光発電システム設置家庭数」ですが、平成25年度には設置家庭数が6700世帯を超えており、過去5年の実績からすると、宇都宮市の計画は着実に進んでいるという推察されます。また、別紙2の9ページで、大規模模自然災害に備えたエネルギー確保のあり方について、市民の約6割、中小規模事業者の約5割が、「身近な地域でエネルギーを作り、確保すること」や「個々の世帯で太陽光発電や蓄電池の設置などによりエネルギーを確保すること」が重要であると考えており、これは震災時に宇都宮市の半数が停電した経験が影響していると推察されているようですが、自立したエネルギーの確保が重要であるという意識が高まっているものと思われま。</p> <p>そのような中、参考資料2の「市民・事業者アンケート調査結果」の7ページの「課題に関連する考察」からすると、一般的に費用が高い再生可能エネルギー設備を戸建て受託以外に導入することは費用対効果の観点からすると普及促進は難しいと推察されます。</p> <p>そこで、一戸建て以外に対する導入促進とはどのようなことなのか、計画等ございましたら聞かせてください。</p>
事務局	<p>一戸建て以外の住宅として、集合住宅などへの設置が効果的ではないかと考えておりますが、具体的な支援につきましては、次期計画の見直しの際に何らかの方策を出していければと考えているところです。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>何もなければ議事1を終わりにしたいと思います。</p>

議事（2）

「第2次宇都宮市環境基本計画等の改定策に関わる基礎調査結果及び環境都市像の検討の方向性」

会長	<p>次に、議事の2、第2次宇都宮市環境基本計画等の改定策に関わる基礎調査結果及び環境都市像の検討の方向性について、事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>— 資料に基づき説明 —</p>
会長	<p>内容が2つありますので、最初に、第2次宇都宮市環境基本計画等の改定策に関わる基礎調査結果について質問やご意見がありましたら伺いたいと思います。</p>
委員	<p>大変素晴らしいデータの抽出に基づき、方向性も良くできているなど感じていますが、CO2を削減できるLRTができるのであれば、削減できたCO2を環境省や経済産業省が進めているJ-BERに登録し、クレジット化して販売して、環境的にも財源的にも良いという理由付けを固めた方が、市民の納得を更に得られるのではないかと思います。</p>

事務局

ご意見ありがとうございました。交通につきましてはLRTも含めて交通ネットワークを新たに再構築することで、環境負荷の少ない都市が実現されると思っております。まさに宇都宮市が目指すネットワーク型コンパクトシティの骨格を成す交通部分でありますので、しっかり対応していきたいと思っております。

また、今年度から、住宅用太陽光発電システムを設置したご家庭からのCO₂排出削減効果を集め、環境価値をクレジット化する「みやCO₂バイバイプロジェクト」という取り組みも行っていますので、具体的なことについては、次期計画の個別の取組として検討していこうと思っております。

委員

まず、別紙1-2「平成25年度の取組状況の評価及び今後の方向性」ですが、今までの実績からすると他市と比較しても引けを取らない総合的な結果を出していますので、自信を持って、今回の目標値の設定は上昇させてほしいと思っております。そうすれば、進み具合ももっと強くなると思っております。

2つ目に、別紙2「市民・事業者アンケート調査結果について」からは、先ほどの議論にもありましたように、子どものうちから必然的に環境について色々な意味で学べる環境を作ることは必要だと思います。環境教育を考えた場合、教育委員会との連携がとても大切だと思います。別紙2の8ページには、青年層の学習機会がとても低いとあります。次期改定に向けて、教育関係についてどのように考えているのでしょうか。

3つ目に、別紙3「環境行政に関する国内の動向について」ですが、国が今後、「安全」を環境の中に取り上げるべきだという説明は非常にインパクトがありました。宇都宮市にとって環境上の安全とはどのように捉えているのかお聞きしたいと思っております。

4つ目に、別紙4「宇都宮市の地域特性と現状」の産業に関するところです。自然環境を考える上でも、農業や商業、工業地帯との関連性を考えておくことは大切だと思います。産業振興上に環境をどう組み入れれば良いのか。経済活動と環境は昔から喧嘩してきたわけですが、宇都宮市は今後、どのようにこれらの調和や連携を図っていくのか、大切な視点だなと感じておりますので、お聞きしたいと思っております。

事務局

1点目の目標値の考え方ですが、目標値はできるだけ高く設定はしていきたいと思っておりますが、最小限の費用で様々な事業に取り組んでおり、財政的な制約もありますので、費用対効果の観点から市民への最大の効用を見ながら目標値を設定していきます。

2点目の環境学習における教育委員会との連携ですが、教育委員会との連携は大変重要であると思っております。環境学習センターでも様々な団体、関係機関などたくさんの組織と連携しながら実施しており、教育委員会とも連携しながら、効果的な事業を行っていききたいと思います。

3点目の環境上の安全ですが、空気や水、健康上の問題などをトータルで捉えながら、環境面では対応すべきところはしっかりと対応していきたいと思っております。

4点目の、経済と環境の連携については、環境・経済・社会という課題が非常に複雑に絡み合っており、逆の意味では、1つの課題解決が他分野の課題解決にも繋がるということもあります。バランスが難しいところではありますが、環境・経済・社会での連携をとりながら、これからの環境政策に取り組んでいきたいと思っております。

委員

安全といっても、宇都宮は山村部だけ、あるいは都市部だけの自治体とは違いますので、どこに視点を置き、どこまで考えなければいけないのか、今のうちから整理しておく必要があると思っております。宇都宮市の特性や地域性、気象の変化など様々な視点で、今後の環境を考えていった方が良いと思っております。宇都宮市ならではの視点で、市民に分かりやすいような基本計画を改定していくことが重要だと感じております。

目標値については、定義の変更はしたくないかもしれませんが、今までの目標値の捉え方からすると高い達成度が出ていますので、そこから、「1.0倍」した目標としているという宣言をするとよいと思っております。達成度が落ち着いたら元の目標値に戻しても良いと思っておりますし、そのような工夫まで考えられたらと思っております。

会長 基礎調査について他にご質問はありますか。

委員 別紙2「市民・事業者アンケート調査結果について」の3ページで、「川の水のきれいさ」に対する市民満足度が低いことが気になりました。環境基本計画書の冒頭の挨拶でも宇都宮市の水の綺麗さを訴えており、違和感があります。河川のBODの基準達成度は〇なのにこういう結果になってしまっているのは、評価結果と綺麗さが繋がっていないからだと思います。もう一つの見方は、BODが94%をクリアしているとしても、100箇所中6箇所、12回計測したうち5回が環境基準をオーバーしており、他はオーバーしていません。つまり、悪いところを手当てすることによって、満足度を高めることかもしれないと思いました。

会長 確かに平均値では良い結果かもしれませんが、汚い河川の近くに住んでいる人から見れば深刻な問題かもしれません。

事務局 BODについては、県で作成した測定計画の調査地点で調査を行っております。スポット的に見た目が悪いことなどが、このようなアンケート結果に現れているのかなと思います。宇都宮市全体として見た場合は、良好な状況であると考えております。

委員 様々な調査結果をどのように見て、次の仕立てにするかが重要だと思います。例えば、市民・事業者アンケートでは省エネ機器の導入や市民意識の把握がされています。市民のニーズが高いところと、別紙4でのCO2排出量の6割を占める産業・業務部門を下げたい部分とのかい離など、我々が低減を図りたいポイントと市民ニーズとの違いをどのように見るかが非常に大切であると思います。最近では、技術革新も進んでおり、スマートハウスのようなエネルギーシステムを総合的に組み入れた環境負荷が低い住宅や、それとモビリティとの融合、公共交通やLRT、自動車などのツールを総合的にマネジメントするシステムの構築なども行われています。市民ニーズに捉われ過ぎず、我々が進めていきたい方向性と市民意識を総合して、次の施策に織り込んでいただきたいと思います。

事務局 ご意見ありがとうございます。日常生活レベルや経済活動のレベルを落とすことなく、環境負荷を低減するというところで、スマートシティという考え方になっていくものと思います。私共も家庭部門、事業者部門がどのような形でスマート化を図れるかを検討している状況であり、ご意見を踏まえながら、次期計画には新しい取組として加えていければと思います。

会長 他にはございますか。

委員 今の話に関連してですが、ネットワーク型コンパクトシティがなぜ良いのか、見えにくいところがあると思います。拠点の特色を守っていくということや、拠点化する意味を強めに出さなければ、ネットワーク型コンパクトシティが良いのか具体的に見えてきません。

会長 その他はよろしいですか。ご意見・ご質問なければ次の内容に移りたいと思います。「環境都市像の検討の方向性」です。別紙5のキーワードに追加する項目があるかどうか、追加する視点などがあるかどうかなどに焦点を当てて話し合いたいと思います。

委員 都市像を市民意識調査やネットワーク型コンパクトシティの方針を絡めて考えることは大切だと思いますが、最終的な方向性のイメージが、インフラ中心の都市像になりそうな気がしています。「人と自然が豊かで共生できるまち」と「都市の質を高めた環境負荷の少ないまち」の2つは、他の自治体での都市像と似てしまうのも仕方ないとは思いますが、都市像を目指すのであれば、宇都宮らしさを出さなければいけないと思います。インフラを意識してしまうと、かたい目標になってしまいますので、宇都宮市にはこの視点があるとはっきりと言えるような都市像づくりにあと一頑張りお願いしたいと思います。

また、「もったいない」は他にはない運動で、外にアピールできることだと思います。方向性を絞っていくときに漏らさないようにしてほしいと思います。「もったいない」の位置づけを簡単に教えていただきたいと思います。

事務局	<p>ありがとうございました。ネットワーク型コンパクトシティは目指すべき都市空間の姿、いわゆる地べたの部分で、基盤だと思います。その上に、どういう服を着せていくのか考えたいと思っており、地域によって異なる特色を活かしながら、もったいないを意識していくことが重要だと考えています。「もったいない」は、宇都宮市民の心のよりどころとして、何をするにしても「もったいない」を忘れずに行動していくことが本当にできれば環境都市になります。すべての環境都市像を支える市民の心のよりどころとして、今後も強く推進していきたいと思えます。</p>
委員	<p>「もったいない」については、素晴らしい実績がありますし、これからも出てくると思います。1つ気になっているのは、「もったいない」は、発展や成長のイメージが出にくく、若い人たちには「貧乏くさい」と言われたりしますので、最終的には言い回しを注意したほうがいいかなとも思います。</p>
事務局	<p>「もったいない」は確かに、全く知らない方が聞きますと誤解をされかねない部分もありますが、宇都宮市の「もったいない」は、人、物、街を大切に作る心という定義で行っていますので、逆に、その浸透を図りながら、市民が自信を持って「もったいないの町に住んでいる」と言えるように取り組んでいきたいと思えます。</p>
委員	<p>「自然災害への対応」の記載がありますが、宇都宮市ではどれくらいのエネルギーが確保されているのか、ある程度具体的なものが示されると、より安心できると思えます。宇都宮市の場合、どのくらいのエネルギーを確保できているのでしょうか。</p>
事務局	<p>大変申し訳ありませんが、災害時の確保については、環境部では把握していないところでございます。申し訳ありません。</p>
会長	<p>他にはございますか。</p>
委員	<p>「方向性のイメージ」の言葉は、市民から見ると正直難しいというのが印象です。都市の質を高めるためには、そこに住んでいる人々の心を動かす、もしくは参加させるということが大切だと思いますので、心を動かすような言葉が入るといいと思えます。少し固いイメージがあります。</p>
事務局	<p>方向性のイメージについては、心への感じ方という点でも、さらに検討していきたいと思えます。</p>
会長	<p>「自然環境、人間生活が互いに尊重し」というところが、文章として気になります。</p>
事務局	<p>今後、市民の方が共感を抱いていただけるようなフレーズなどを検討していきたいと思えます。</p>
会長	<p>他にご質問はございませんか。 なければ2番目の検討項目についてご承認ということでよろしいでしょうか。 —異議なし—</p>
会長	<p>承認とすることにいたします。</p>
会長	<p>それでは、「5. その他」に移ります。 委員の皆さんから何かございますか。 (意見なし) 事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>—連絡事項の説明—</p>
会長	<p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、「第28回 宇都宮市環境審議会」を閉会いたします。</p>